

## コラム 札内川技術検討会への参画

近年、多くの河川では、河道内の著しい樹林繁茂が治水や環境の面で深刻な問題となっています。北海道の十勝川水系の札内川においても、樹林化により近年急速に礫河原が減少し、礫河原由来の動植物の生息環境の悪化が懸念されています。

このような札内川の課題に対して、「札内川技術検討会」(事務局、北海道開発局帯広開発建設部治水課)では、礫河原再生に向けた技術的な検討を実施しています。寒地河川チームと水環境保全チームは、当検討会に委員およびオブザーバーとして参画し、研究成果を反映した技術的提案や助言を行っています。両チームの研究成果に関係する主な内容は次のとおりです。

- ・礫河原再生の取り組みとして平成 24 年度より札内川ダムからのフラッシュ放流が実施されています。寒地河川チームと水環境保全チームは、放流時の現地観測より流況特性を把握し、放流の効果を検証しています。

- ・札内川の河道形状の特性を調査したところ、砂州上に存在していた派川(旧流路)の多くが閉塞してしまつたために、砂州が攪乱されずに固定化したことが樹林域拡大の要因の一つだということがわかりました。そこで、河道形状の特性と放流時の流況特性を把握した上で、既に閉塞した旧流路を効率的に回復させるために適した掘削箇所を選定手法について提案しています。また、現地試験によりその有効性を確認しています。

これらの成果を平成 27 年土木学会河川技術論文集(寒地河川チーム発表)で発表し、優秀発表者賞を受賞しました。

また、当研究所からだけでなく、検討会に参画している多分野の学識経験者からの多岐にわたる提案や助言に基づいて調査・検証が実施されています。これら一連の取り組みが平成 27 年度国土交通省国土技術研究会(帯広開発建設部治水課発表)で最優秀賞を受賞し、検討会の成果が高く評価された形となりました。今後も、河道内樹林化の問題に関して引き続き研究を遂行し、その成果を反映させた技術的提案および助言を行っていきたいと思います。



写真-1 札内川の樹林化(左: S53 年、右: H22 年)



写真-2 札内川技術検討会



写真-3 ダムからのフラッシュ放流時の流況観測



図-1 河川技術論文集優秀発表者賞